

とさのさとより



最新品種の「フロマージュ」。
黄色色と伸びるふさふさの
青いヒレがきれいでオススメです！

改良メダカの虜です

たかはし れんげい
高橋 蓮平さん(31歳)

4年前コロナ禍で外出自粛していた時、家の中で子供と楽しめることを考え、メダカを飼い始めました。世話をするうちに、その種類の多さ・かわいさの虜になり、2年前から仕入れ・飼育・繁殖までこなし、とさのさとなどに改良メダカ約30品種を出荷するようになりました。家のハウスなどで多い時は約5,000匹を飼育しています。ほぼ毎日出荷先には水の管理と餌やりに出向き、メダカが元気な状態で店に並ぶよう意識しています。

高知ではまだまだ改良メダカは認知度が低いので、魅力や飼いやすさを広めていきたいと思っています。毎年3月から10月末頃まで出荷しているので、ぜひ見に来てください！

「美しいフォーム」を心掛けて

よしもと みき
吉本 三紀さん(74歳)

女性部に加入し約20年。公民館で料理・食事会をしたり、地元の行事への参加や1日研修、パークゴルフなどの活動に参加しています。親から受け継いだハウスではブロッコリーや芽キャベツなどの野菜を少し育てています。

趣味は退職後から始めた水泳で、体力づくりのために週2回教室に通っています。仕事仲間から誘われて始めたものの、初めは顔を水につけることも苦手でした。それでも続けているうちに無心で泳げるようになり、今ではとても楽しみになっています。「美しいフォームで泳ぐ」ことを心掛け、できるだけ長く続けたいと思っています。

芳原より



高知
地区

から こんにちには
今月の〇〇 気になる人

秋山より



収量20%アップを目標に

かわしま ひろあき
川島 寛明さん(50歳)

結婚を機に妻の実家がある高知に移住し、6年前に就農しました。現在はキュウリを18アール、コシヒカリを約1ヘクタール栽培しています。

環境制御装置やIoT技術を活用し、データを分析しながら収量20%アップを目標に栽培しています。農業のやりがいは、手間をかければ作物に成果が表れること。毎年変わる環境に対応し、模索しながら答えを見つけていくのが楽しいですね。我が家のわんこ2匹もキュウリが大好きです。

作が終わったら、帰省して地元の友人とのドライブと旅行に行くことが楽しみです。趣味は音楽を聴くことで、農作業中はよくヘビメタを聴いています。

「また食べたい」柿を作り続けたい

たかはし すみ
高橋 須美さん(66歳)

退職後、家業で100年以上続けている柿栽培を手伝い始めました。約30ヘクタールで次郎柿と横野柿の木を約150本、家族で丁寧な摘果・消毒を心掛けて管理し、とさのさとや地元スーパーなどに出荷しています。自分たちの柿は甘さ・大きさに加えて、種が少なく食べやすいことが魅力です。これからも「また食べたい」としてもらえそうな柿を作り続けたいと思っています。休みの日は、ジャンルを問わずライブやコンサートに行くことが好きです。好きなアーティストがいる「夢の世界」に浸れる感じが好きですね。

とさのさとより



できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！

5 高知地区 JAに勤労感謝園児が手作りカレンダーをプレゼント



手作りのカレンダーと小物入れを渡す園児

高知市立春野中央保育園は11月22日、勤労感謝の日に合わせて春野支所を訪ねました。4歳から5歳の9人は手作りのカレンダーと小物入れを「いつも野菜の苗を売ってくれてありがとう」と言いながらJA職員に手渡しました。カレンダーを受け取った筒井幸二支所長がお返しに塗り絵と、地元産のキュウリとナスをプレゼント。園児は「野菜がもたらえてうれしい。ナスをポン酢で食べるのが好き」とお礼を述べました。筒井支所長は「職員一同、毎年楽しみにしていて、園児たちから元気をもらえる。野菜をいっぱい食べて元気に育ってほしい」と話しました。

3 高知地区 キュウリ現地検討会 ほ場視察し意見交換



ハウス内で生育状態を確認する生産者

春野キュウリ部会は11月9日、春野町で今年度1回目の現地検討会を開きました。部員や職員、関係者が参加し、町内3カ所のほ場を視察。生育状態を確認し合い、部員同士で意見を交わしました。販売課は年間の出荷・単価目標達成に向けてM品率の向上などを呼び掛け、営農指導課は「OPクラウド」「SAWACH」を活用し作成した環境測定シートなど、農業の「見える化」に向けた部会の取り組みを報告しました。山下統営部会長は「今年度の目標達成に向け、現地検討会や目慣らし会を通じて、部会が1つとなり反収アップを目指す」と意気込みを話しました。



サンプルで香り確かめる客と説明する近森部会長

1 高知地区 協同組合フェスタ初開催！ 春野女性部・フレミズ部会も出店

女性部春野地区と同地区フレッシュミズ部会は11月12日、ファーマーズマーケットとさのさで行われた「第1回協同組合フェスタ」に参加しました。同フェスタは初めての開催で、女性部はフリーマーケット、フレッシュミズ部会は手作りのアロマワックスサシェ・アロマリース販売を行いました。同地区フレッシュミズ部員は専門家の指導を受け、商品作りやワックス作成の練習を重ねてい

す。8種類のアロマオイルや3種類のラッピングにこだわったほか、香りを実際にサンプルで確かめてもらうなど工夫し販売しました。同フレッシュミズ部会の近森陽子部会長は「香りが好みが分かれるので、サンプルで気に入ったものを選んでもらう形式にした。花の色合いと好きな香りでもラックスし、インテリアとしても楽しんでほしい」と話しました。

6 高知地区 土佐和牛とビールでカンパイ！



「土佐あかうし」と「土佐黒牛」の食べ比べセットなどを販売

高知県食肉センター(株)は11月26日、高知市で、県内のクラフトビールメーカー「SOUTH HORIZON BREWING」を運営する(株)チョコカスと共同で「肉食麦飲」イベントを初めて開催しました。「土佐あかうし」をはじめとする県産畜産物の販売業者5店舗と県内醸造のクラフトビールメーカー5店舗が出店しました。高知市から訪れた30代の男性は「個性豊かなクラフトビールとお肉を楽しめた」と話しました。高知県食肉センター(株)の澤田章史社長は「相性抜群の肉とビールをセットでPRすることで、多くの方に土佐和牛の魅力を伝えることができた」と話しました。

4 高知地区 3部合同で米麴作り 弘岡下・森山・フレミズ



米の蒸し具合を確認する甲藤支部長とフレミズ部員

春野地区女性部弘岡下支部は11月15日から17日、森山支部とフレッシュミズ部会と合同で米麴作りを行いました。フレッシュミズ部会が参加するのは初めてです。使う米は部員が栽培しているものをそれぞれ持ち寄り、35℃を用意しました。弘岡下支部の甲藤繁子支部長が製麴機の使い方などを指導。さし水をするときは熱くなっているのを気をつけることなどを伝えました。甲藤支部長は「若い世代と活動することは学び合える良い機会。機械の使い方などを引き継いでいきたい」と話しました。作成した米麴は、部員たちで塩麴や甘酒、料理などに使う予定です。



県選出国會議員と意見交換するJAの代表者(東京都千代田区で)

2 高知地区 基本法施策具体化へ議論 高知県選出国會議員に要請

JAグループ高知は11月13日、県選出国會議員との政策懇談会を東京都の衆議院第2議員会館で開きました。食料・農業・農村基本法関連施策の具体化にかかるJAグループの重点要請などについて、県選出国會議員ら7人との意見交換を行いました。意見交換会には県内3JA組合長、JA高知中央会やJA高知女性組織協議会・青壮年連盟の代表者らが参加し、重点要請の「再生産に配慮した適正な価格形成の実現」や「多様な経営体の位置づけ」について主に議論しました。また、JAとして将来を見通した基本農政の確立を図るとともに、万全な農業関係予算を確保し食料安全保障を強化するよう強く要請しました。中谷元衆議院議員は「自民党内検討委員会では基本法の見直しをしっかりと行い、日本の生産・流通・加工・消費者をつなげる価格転嫁の仕組みを作っていくよう、しっかりと議論をしていきたい」と話しました。

高知農業改良普及所より

ほ場整備をすすめよう！

農家負担なし！で、ほ場整備ができます！
農業をリタイアしようと考えている方、土地持ち非農家の方など必見！

～“農地中間管理機構関連農地整備事業”のご紹介～

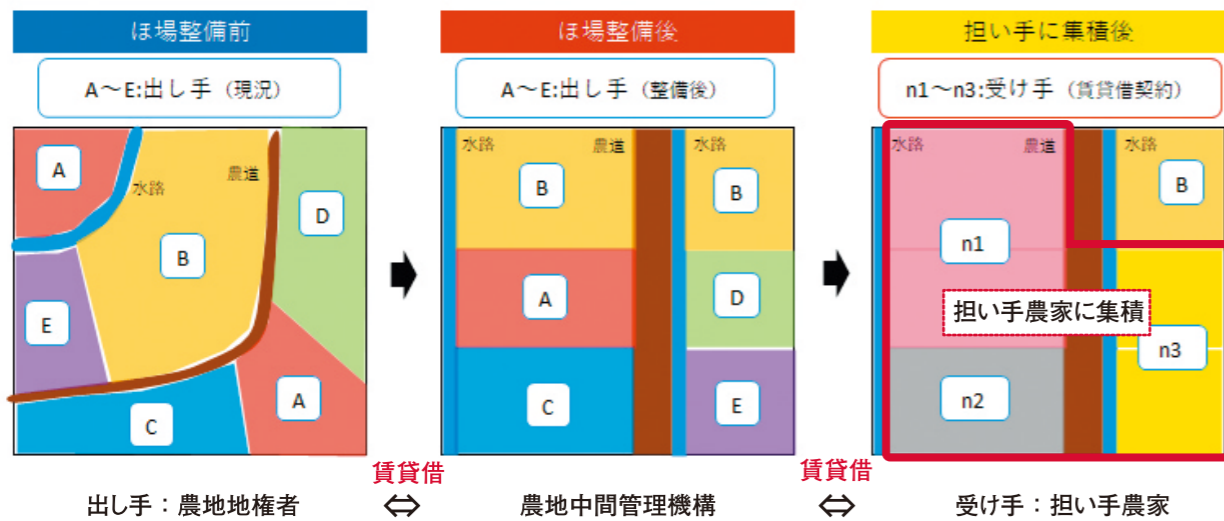
ほ場整備とは、農地の大区画化や、道路・水路を整備することで生産性の向上を図るものです。

これまでのほ場整備は農家負担（例えば事業費の10%など）が必要でしたが、H30年度から、**農家負担なし**の事業「**農地中間管理機構関連農地整備事業**」が創設されました。

この事業は、ほ場整備を行う前に、その整備する区域にある皆様の全農地について、**農地中間管理機構**（高知県農業公社）へ**事前に長期（15年以上）貸付**を行い、整備後（登記後）に区域内外の**担い手（認定農業者など）**に農地中間管理機構から長期に貸すことで**担い手に安定して農業を営んでもらうというもの**です。

耕作放棄地が増えてきたエリアや**将来、担い手が営農を止め、耕作する人がいなくなる不安があるエリア**など、この機にこの事業を導入し、使いやすく貸しやすい農地に転換していきましょう！

農地中間管理機構関連農地整備事業（ほ場整備）のイメージ



【重要】事業の導入にあたっては、以下の要件を満たす必要があります。

- 1) 全体面積要件は、10ha以上（中山間地域5ha以上）であること
- 2) 構成する各団地、1ha以上のまとまった農地（中山間地域0.5ha以上）であること
- 3) 整備する農地を15年以上、農地中間管理機構へ貸すこと（農地中間管理権設定）
※農地中間管理権の設定においては、**相続人全員の同意が必要**です
- 4) 事業完了後5年以内に、**8割以上の農地を“担い手”に集積（貸す）**すること
- 5) 事業完了後5年以内に**区域全体で2割以上の収益性が高まること**（果樹：10年以内）
※費用対効果は1.0以上必要です

（その他留意事項）

土地改良区の設立は不要ですが、**換地（登記）にかかる作業は地元と行政が協力して行う**必要があります。また、換地を伴うため、**清算金が発生する場合があります**。本事業は、**県、市町村、関係農家、農地中間管理機構が連携して準備・実施**します。**※清算金とは整備前・後の土地の評価や面積が変わるため、これを解消するためのものです。**

お問い合わせ先：高知県中央西農業振興センター総務企画課
(TEL.088-852-7266) まで



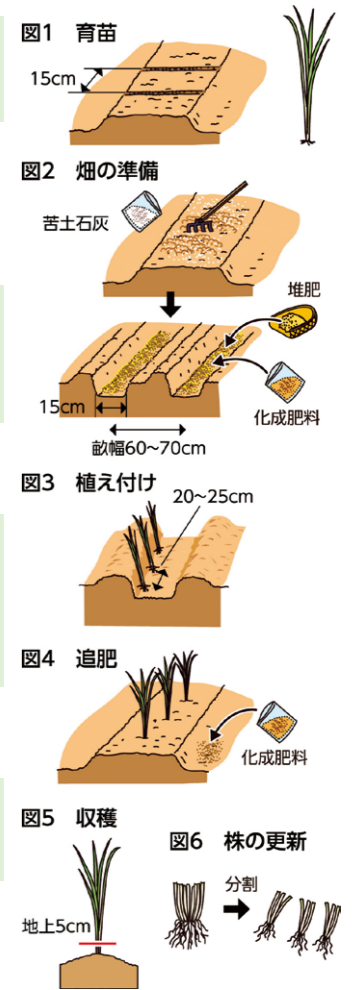
あなたもチャレンジ！ 家庭菜園

ニラ 長い期間収穫を楽しむ

園芸研究家 ● 成松次郎

春（3、4月）に種まきし、育苗して、6、7月に植え付け、翌年の春～秋に収穫します。乾燥する場所以外ほとんどどんな土地にも育ち、半日陰でも大丈夫です。

- [品種]** 「ミラクルグリーンベルト」（武蔵野種苗園）は鮮緑色で葉幅が広く、肉質は柔らかい品種。「タフボーイ」（八江農芸）は耐寒・耐暑性があり、刈り取り後の再生力の高い品種です。
- [育苗]** 1平方m当たり化成肥料（NPK各成分10%）100gと堆肥1kgを施し、土とよく混ぜておきます。幅70cm程度の苗床を作り、条間15cm、1cm間隔にすじまきします（図1）。発芽後、密生した所を間引き、草丈25cm程度まで育てます。
- [畑の準備]** 植え付け2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを全面にまいて、よく耕しておきます。植え付け溝は畝幅60～70cmとし、深さ20cm、幅15cmに掘り下げます。元肥は植え溝1m当たり化成肥料50g程度、堆肥1kgを施し、土を掛けておきます（図2）。
- [植え付け]** 苗は根を傷めずに掘り取り、株間20～25cm間隔で1カ所3、4本をまとめて植え付けます（図3）。
- [追肥・中耕・とう摘み]** 植え付けの年は9、10月に月1回追肥をします。1回の追肥量は畝1m当たり化成肥料30g程度とし、この際に中耕を行います（図4）。2年目以降は春先と、収穫後に同量を与えます。なお、植え付けの2年目以降は夏になると、とう立ちするため早めに蕾（つぼみ）を摘み取ります。
- [病虫害防除]** 新芽に付きやすいアブラムシには「粘着くん液剤」「ベニカ水溶剤」などの登録農薬で防除します。
- [収穫]** 翌年4月から10月にかけて収穫できます。草丈35cm程度に伸びた頃、地上5cm程度の部分で刈り取り収穫をします（図5）。1年に3、4回収穫できます。
- [株の更新]** 3、4年は同じ畑で栽培できますが、密生し葉幅が狭くなってきたら、春に株を更新します。株を掘り取り、分割して3芽ずつまとめて植え直します（図6）。



皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

栗のお菓子は幸せな気持ちにさせてくれます。農家の皆さん、いつも美味しい栗をありがとうとございます。

(高知市神田 56歳)

▼11月号ではブランド化した「四万十の栗」の魅力と、地域一体となった産地の取り組みを特集しました。天候の影響を受けやすい栗栽培、台風などの中でも、毎年大粒で強い甘みを持つものを作りあげる農家の方々に感謝です。ご紹介した栗スイーツ4種類、全部食べたいですね。

とさのさと500万人おめでとうございます。これからもおいしく新鮮な品物を提供してください。

(春野町南ヶ丘 67歳)

▼トップニュースでは、9月16日に「とさのさと」の来店者が500万人を達成したことをお知らせしました。いつもご利用いただいている皆さまのおかげです。引き続き旬の県産農畜産物をお届けしていきますので、これからもよろしくお願いします！

我が家はなるべく国産のものを食べるようにしています。これからもJA直販所の農畜産物を購入して食べていきたいと思えます。

(高知市塚ノ原 46歳)

▼JAグループでは、「国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する」という「国産国産」への理解醸成に努めています。国産食材を食べることは、地域・日本の農家さんを応援し、未来の子供たちの「食」につながります。直販所には地元の農家さんが作った野菜や果実などが並んでいるので、ぜひ来店ください。

高知地区からこんにちは、毎回顔見知りの人が出ているので楽しみです。

(春野町平和 70歳)

▼11月号では、女性部の方から農家さん、和菓子店や伝統工芸を受け継ぐ職人さんなどさまざまな方をご紹介しました。その方々の人生や価値観に触れることができるこのコーナーの取材は毎回楽しみです。これからもいろいろな方をご紹介していきますので、お楽しみに。

男の料理教室良いと思えました。主婦もたまには作ってもらったごはんが食べたいです！

(高知市東泉寺 35歳)

▼チクカツ！では「とさのさとアグリコレット」で開催している「男の料理教室」を紹介しました。野菜ソムリエやシェフに直接丁寧に指導してもらえるので、参加者もどんどん上達していました。

コチットのイチオシ！は毎月楽しみにして出かけます。美味しかったです。

(高知市高須 40歳)

▼11月号は「モネの庭」マルモッタン内にあるカフェ「モネの家」の「柚子のパスタセット」を紹介しました。12月10日までの限定メニューでしたが、皆さんは食べに行きましたか？モネの家ではこの期間以外にも一年を通してユズ料理がたくさんあり、ユズ果汁を使った自家製ドレッシングなどもあるそうです。ぜひ訪れてみて下さいね。

Aコープ・春の里にイラスト・塗り絵などを展示中！

昨年10月28日、4年ぶりに「ハルピアマツリ」が開催されました。ご来場いただいた方々に自由に描いてもらったイラストや塗り絵などを直販所「春の里」に3月末（予定）まで展示しています。ぜひ見に来てください！

